

平成27年度 東京都海の森倶楽部会員事業

ESD (Education for Sustainable Development)推進のための次世代人財育成事業

指導者研修会実施概要

2015年10月

一般社団法人CSV開発機構

1 実施の概要

ごみの埋め立て地を緑地化する「海の森」は、世界で進行するごみ問題を持続的発展の視点で解決した先進事例と考えることが出来ます。この場を活かして、**ESD推進のための第一歩**となる取り組みを行います。

まず指導者（教師・親・PTA等）が、そして子供たちが、ESD視点で海の森を体験し、**アクティブ・ラーニングの実践**として、様々なものを、主体的に学び取るプログラムを展開します。

このプログラムを通して、子供たちを正しく導く役割を持つ指導者がESDについて学ぶことは、大変有意義であり、育成の場として最適と考えます。

プログラムの内容

ESDの視点で海の森を体験する
自ら課題を見出し、主体的に学習する

【課題例】

- 江戸期から東京の海岸線の変化と埋め立ての歴史
- 高度成長経済以降の東京とごみ問題
- 世界の都市とごみ排出および処分の現状
- 都市のレジリエンスとサステナビリティ
- 生態系の再生と、生物多様性の変遷



写真はイメージです

実施予定時期

平成27年11月 指導者研修会

← 今回実施分

平成28年3月 子ども海の森体験教室



写真はイメージです

ESD(Education for Sustainable Development) : 持続可能な開発のための教育
現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む (think globally, act locally) ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

日程 (案) 2015年11月24日 (木) 12:30 ~ 17:00

参加人数 40名 (小学校教員・環境教育支援NPO)

プログラム (案)

12:30

集合 (東京レポート駅)

(貸切バスにて移動：東京都環境局中防合同庁舎 10F 見学者説明室)

13:00 ~ 14:00

【座学 1】 東京都のごみ処理の変遷と現状

(東京都環境局様と連携)

- ① ライフスタイルの変化と東京都のごみ処理施設の変遷
- ② 焼却炉の進化、分別の必要性
- ③ 今後の見通し・埋め立ての限界

14:00 ~ 15:30

【見学】 処理施設と埋立地見学 (バスにて移動)

- ① ごみ処理施設
- ② 埋立地 (外防)
 - 埋め立てゴミの断面
 - 東日本大震災の残さ
 - 外来植物だらけの状況
- ③ 海の森 (内防)
 - 取り組みの状況

(東京都港湾局様と連携)

【体験】 植林作業とAR活用教材 (海の森)

(樹木・環境ネットワーク協会様と連携)

- ① 植林作業
- ② AR (仮想現実) を活用した教材の体験

15:30 ~ 16:30

【座学 2】 ワークショップ (東京港建設事務所)

- ① 見学内容のフォローアップ (澁澤先生)
- ② グループディスカッション
 - 子供たちに何を伝えるべきか

(貸切バスにて移動：品川駅)

17:00

解散 (品川駅)

プログラムの狙い

【座学1】 東京都のごみ処理の変遷と現状 (東京都ご担当様より)

- ① ライフスタイルの変化と東京都のごみ処理施設の変遷
- ② 焼却炉の進化、分別の必要性
- ③ 今後の見通し・埋め立ての限界

ごみ処理に関する優れた技術についての知識を得るとともに、大量のごみを排出してきた時代背景を理解し、今現在の危機的な状況について気づきを得る。

【見学】 処理施設と埋立地見学 (バスにて移動)

- ① ごみ処理施設
- ② 埋立地 (外防)
 - 埋め立てゴミの断面
 - 東日本大震災の震災ゴミ
 - 外来植物だらけの自生植物
- ③ 海の森 (内防)
 - 取り組みの状況

処理施設と処理され埋め立てられているゴミを実際に見ることで、ごみ問題をより身近かなものとして認識させる。

外防の埋め立て地が自生植物が外来種だらけであることに触れ、生物多様性保護の観点での気づきを与える。

【体験】 植林作業とAR活用教材 (海の森)

- ① 植林作業
- ② AR (仮想現実) を活用した教材の体験

外防と海の森の景観の違い、実際の植林作業の体験から人が手をかけて自然を守り育てることの重要性についての気づきを与える。

【座学2】 ワークショップ

- ① 見学内容のフォローアップ (澁澤先生)
- ② グループディスカッション
 - 子供たちに何を伝えるべきか

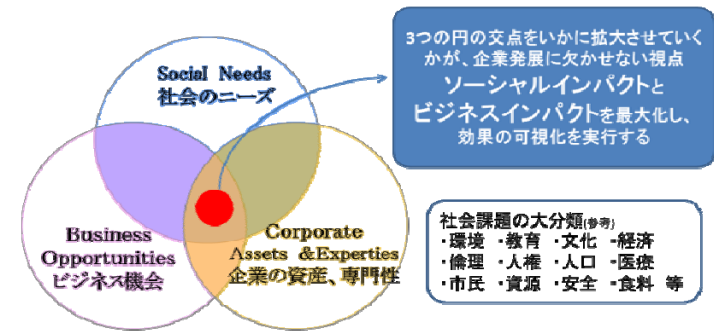
スマートフォン・タブレットを使用したAR (仮想現実) による付加情報の現地・現場での提供による興味関心・理解の深まりについて体感を得る。

子どもたちに「ゼロエミッション」「循環型社会」を目指していくことの重要性を気付かせるために、プログラムとして工夫すべき点を共有する。

一般社団法人CSV開発機構は、高齢化対応・地域の活性化などの社会課題、気候変動などの環境問題など、さまざまな社会・環境課題を抱える現代社会において、企業がCSR（Corporate Social Responsibility=企業の社会的責任）やISO26000の理念を踏まえつつ、本来の**事業展開力を活かした新しいビジネスモデルによって、より良い社会、持続可能な未来を創造していこうというCSVを事業化することを目的**として設立され、日本を代表する企業群が会員として活動しています。

CSV(Creating Shared Value)=共有価値の創造

CSV/シェアード・バリューは、社会的課題とビジネス上の課題の両方に対応するところで生み出され、企業の成功と社会の発展を結びつけるものです。



法人概要

法人名：一般社団法人 CSV開発機構 英文名称：Japan CSV Business Development Organization

設立：2014年4月2日

所在地：東京都港区西新橋3-3-1 TSビル TEL：03-5777-3227 E-mail：toru.kodera@csv-jp.org

役員：理事長：赤池 学 / 副理事長：水上武彦 / 専務理事：小寺 徹 / 事務局長：永山 均 / 監事：岩本 洋介 / 顧問：湊澤 寿一

理事：太田 健(キリン株式会社) / 藤中 隆一(株式会社乃村工芸社) / 反町 雅史(大和リース株式会社) / 長谷部 直人(東京書籍株式会社) / 八田 泰秀(日本ユニシス株式会社) / 平川 健司(株式会社電通) / 原 以起(ヤマハ発動機株式会社) / 門脇 伊知郎(株式会社JTBコーポレートセールス)

会員：株式会社a2media / 川崎重工業株式会社 / キリン株式会社 / 株式会社JTBコーポレートセールス / 住友林業株式会社 / 大和リース株式会社 / 株式会社電通 / 東京書籍株式会社 / 株式会社富士 / 日揮株式会社 / 日本ユニシス株式会社 / 株式会社乃村工芸社 / 三菱地所株式会社 / ヤマハ発動機株式会社 / 株式会社LIXIL / 株式会社J&J事業創造 / 株式会社エクスチェンジ / 富国生命保険相互会社 / 大日本印刷株式会社 / コドモエナジー株式会社 / 株式会社伊藤園 / キャスレーコンサルティング株式会社 / 株式会社ジェイアール東日本企画

特別会員：千葉商科大学 / 青森県 / 弘前市 / (公財)科学技術広報財団 / NPOキッズデザイン協議会 / NPO日本ジビエ振興協議会 / 名古屋市東京事務所 / 大東文化大学

事業内容：

1. CSVによる社会課題解決を進めるために必要なビジネスモデル開発を支援する事業
2. CSVによる社会課題解決を進めるために必要な政策提言を行う事業
3. CSVに関する調査研究事業
4. CSVに関するコンサルティング事業
5. CSVに関する受託事業
6. CSVによる解決を必要とする社会課題の収集を行う事業
7. CSVによる社会課題解決を進めるために必要なネットワークを構築する事業
8. CSVによる社会課題を進めるために必要な普及、啓発、交流を行う事業
9. CSVによる社会課題解決を進めるために必要な情報収集・発信を行う事業
10. その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

東京都「海の森」海上公園を活用した アクティブラーニングプログラム開発 指導者研修会 申込書

送付先: 一般社団法人CSV開発機構 小寺 行き

FAX: 03-5777-3228

メール: staff@csv-jp.org

お名前			
学校名			
	住所		
ご連絡先	電話		FAX
	メール		
その他			

お問合せ先:

一般社団法人CSV開発機構

担当: 小寺

〒105-0003 東京都港区西新橋3-3-1 西新橋TSビル7階

TEL: 03-5777-3227

FAX: 03-5777-3228

メール: staff@csv-jp.org